



メモ

境内巡拝時間は午前7時～午後6時。巡拝料は無料。無料駐車場あり。車は山形自動車道・山形北ICから約20分、JR天童駅から約15分。天童市山元2205の1。電話023(653)4138。ホームページ <http://www.wakamatsu-kannon.jp/>

最上三十三観音霊場の第一番札所で、縁結びに霊驗あらたかと県内外に広く知られる天童市の若松寺観音。おとし開山1300年の節目を迎えた古刹(きさつ)とあって、その歴史を伝える貴重な資料・宝物を数多く所蔵する。それらのうち、他見山(れいりゅうざん)若松寺

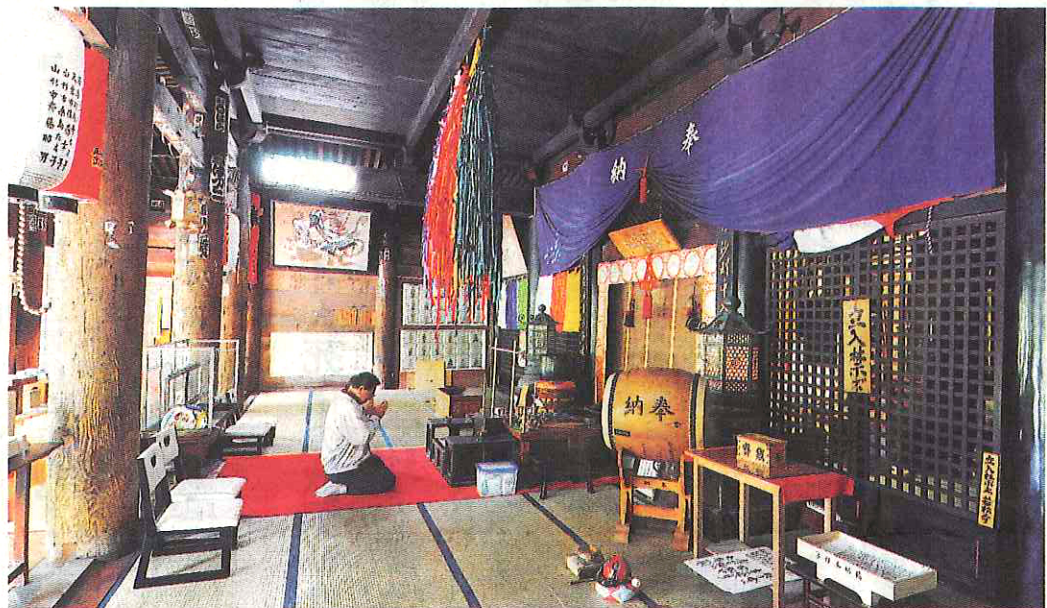
と称する天台宗の寺で、民衆に菩薩と敬われた奈良時代の僧・行基によって708(和銅元)年に開かれた。観音堂は創建当初は山頂(534m)の権現平にあったが、860(貞観2)年に訪れた慈覚大師円仁が参道が急こう配の山道であることから中腹の現在地に移設。この

時に大規模な造営工事を進めて今日に至る伽藍(がらん)配置を行った。また、この時期にそれまでの法相宗から天台宗に改宗したと伝わり、と住職の氏家榮脩(えいしゅう)さん(72)が説明する。現在の観音堂は単層の入り母屋造りで、桁行(けたゆき)と梁間(はりま)がいずれも

5間(約9m)の長さ。室町時代後期の建築様式であり、天井の構成部材に「永正六年(1509年)の墨書銘があることから、今の観音堂の原形は16世紀初めには完成したとみられている。時代が移り変わるに連れて修理が幾度か行われている。1611(慶長16)年には山形城主の最上義光が大修理を施し、床板や側壁板などがすべて新しくされた。その際、従来の松や杉の木材に加えてブナ材が多用され、建築物には不向きなブナ材を使った「全国的に珍しいお堂」になったという。お堂の内部は、格子戸と菱欄間で内陣と外陣とに分けられている。内陣には須弥壇(しゆみだん)が設けられており、

中世末の密教仏堂様式、今に

者がひもを引く度に珠が回って落ちるガラガラという音が鳴る。4年ほど前から、氏家住職と握手して名前と観音様の御真言を唱えてもらうと良縁に恵まれると口コミで広まり、巡礼者に交じって若いカップルや女性グループの姿が目立つようになった。



観音堂の外陣と内陣は格子戸と菱欄間で区切られている



参拝者が相次ぐ若松寺観音堂。室町後期に建築され、中世末期の密教仏堂様式を今に伝える



参拝者は皆、観音堂の正面に下がる大数珠のひもを引く